



日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	8

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「#桜のある水辺風景写真 2025」Instagram にて募集中！

前号にてご案内いたしました通り、今年も「桜のある水辺風景写真」の募集を実施しております。

ご応募いただいた作品の中から、事務局にて最優秀賞（1点）および優秀賞（複数点）を選定し、JRRN ホームページにてご紹介いたします。JRRN 広報誌やウェブサイト等を通じて、会員約 900 名をはじめ、リバーフロント研究所など関係機関と連携しながら、全国に向けて広く発信いたします。

2021 年より運用を開始した JRRN の Instagram は、これまでに 300 件を超える投稿を重ねており、河川関係者に加え、他分野のフォロワーの皆様とのつながりも広がっております。本企画を通じて、桜と水辺の風景を国内外の方々と共有いただければ幸いです。

応募の 3 ステップはこちら！

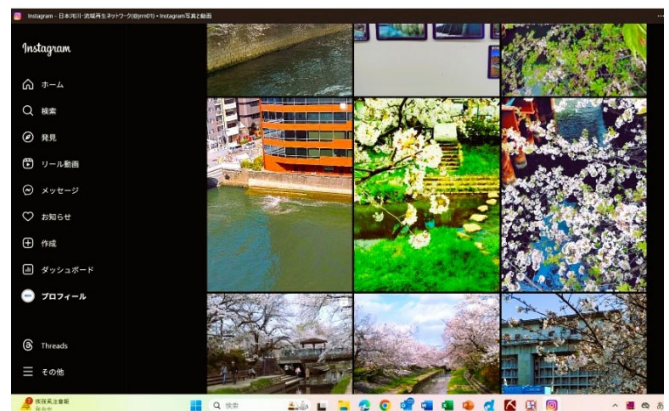
STEP1 : JRRN の公式 Instagram (@jrrn01) をフォロー & タグ付け

投稿の際は、アカウント「[@jrrn01](#)」をタグ付けしてください。
QR コードからもアクセス可能です。



STEP3 : 投稿期間は 2025 年 5/12(月)まで！

期間内に投稿された写真が審査の対象となります。
なお、過去に撮影された写真の投稿も大歓迎です！



STEP2 : 「桜のある水辺風景」の写真を Instagram に投稿！

タイトル、撮影時期、場所、コメントなどは自由にご記入いただけます。投稿の際には、「[#桜のある水辺風景 2025](#)」というハッシュタグを必ず付けてください。その他のハッシュタグは自由に設定可能です。

(JRRN 事務局・後藤千佳子)

桜のある水辺風景

二〇二五 写真大募集

応募締切
5/12(月)

●応募期間：2025年3月3日（月）～2025年5月12日（月）

●応募方法

- ①Instagramを公開設定
- ②「jrrn01」をフォロー
- ③「#桜のある水辺風景2025」をつけて投稿

※応募についての詳細は

Instagram #桜のある水辺風景2025 にてご確認ください

問合せ：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

事務局 担当：阿部・後藤 (Eメール: info@a-rr.net)

主催：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 応募先・問合せ先：info@a-rr.net

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトー令和7年度「小さな自然再生」現地研修会の開催地募集

JRRN では、地域が抱える川づくりの課題を解決するための様々なテーマを設定し、2015年度から昨年度まで全国で27回の「小さな自然再生」現地研修会を開催してきました。(地図参照)

多様な動植物が生息・生育・繁殖できる環境づくりを進めるためには、さまざまな主体が協力し、共に学び合うことが大切です。そこで、今年度も、水辺で「小さな自然再生」に取り組む仲間を増やし、育てていくことを目的として、「小さな自然再生」現地研修会(3回程度)を開催いたします。

現地の川づくり・流域づくり・地域づくりの担い手の方々、研修会の一般参加者、そして「小さな自然再生」研究会の専門家とともに、身近な水辺でできる小さな自然再生の見直しを通じて、技術やノウハウ、工夫等々を一緒に学ばせて頂くフィールドはありませんか？

昨年度に計5回開催しました2024年度「小さな自然再生」現地研修会の開催報告を公開済です。各研修会について当日の写真や関連資料を中心に概要をとりまとめておりますので、今年度の現地研修会開催の検討に際しては、是非とも昨年の開催成果もご覧頂ければ幸いです。

※令和6年度 第23回～第27回研修会報告書はこちら
<http://www.collabo-river.jp/events/>

【応募条件】

水辺の小さな自然再生に関わる取組を既に実践している、またはこれから取組もうと考えている現場を有する川づくりの担い手の方々。(市民団体、河川管理者、研究者、実務者 etc.)

※応募いただいた方とは、5月9日(金)以降にオンラインで面談を行い、開催地を最終決定いたします。

【応募期間 及び 今後のスケジュール】

◇応募期間：2025年4月16日(水)～5月8日(木)

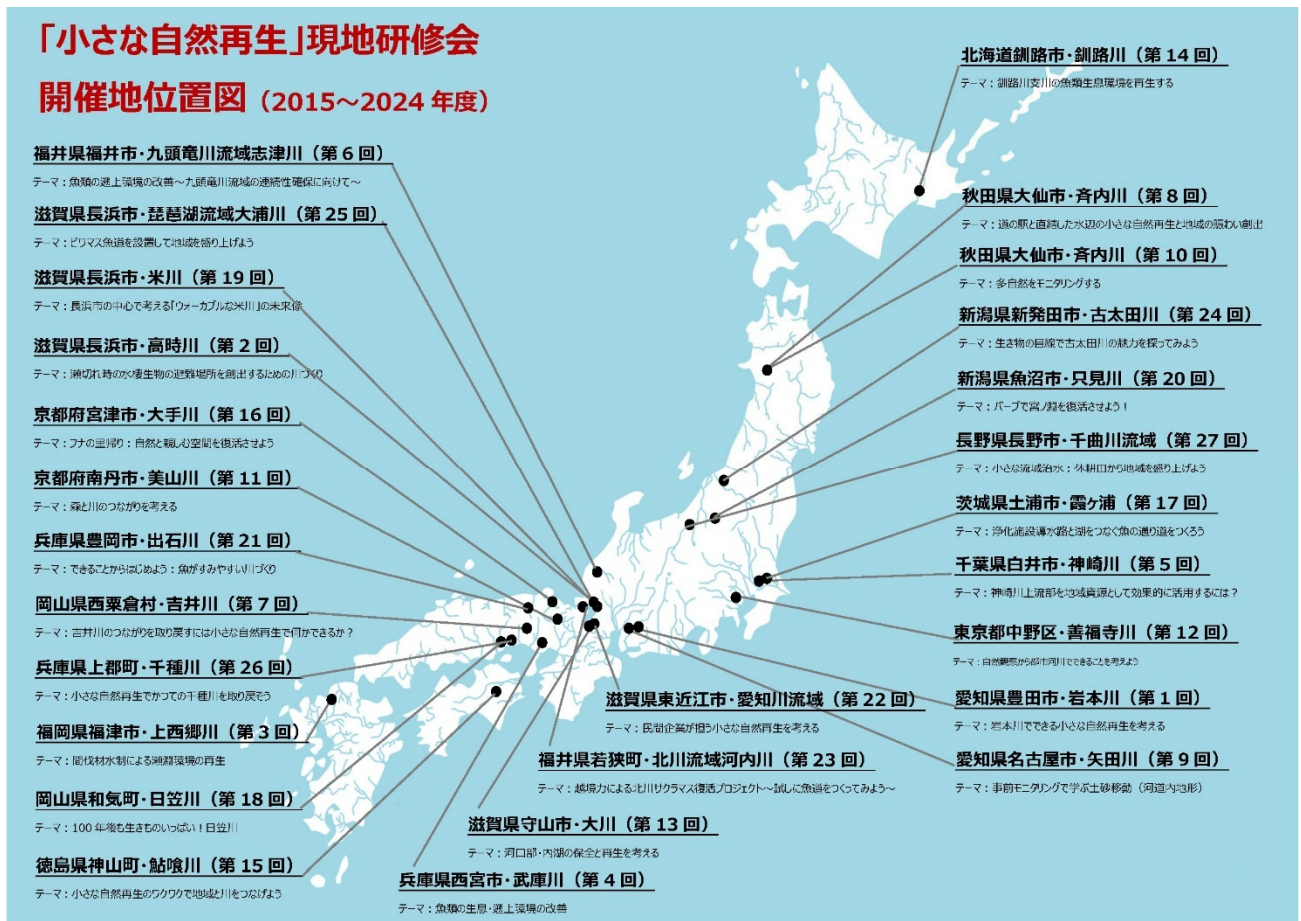
◇今後のスケジュール：

- ・～5/8(木)：開催を希望する現場の公募
- ・5/9(金)～5月下旬：各応募者とのweb面談
⇒開催地を決定(3箇所程度)
- ・6月上旬～12月頃：企画調整～現地下見～準備～現地研修会開催
- ・翌年1月～3月：現地研修会開催成果の普及

今年度の現地研修会の開催地募集の詳細は、次頁以降の案内チラシ及び以下の案内ページをご覧ください。

※令和7年度現地研修会 開催地募集案内はこちら
<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1530.html>

(JRRN 事務局・和田彰)



2025年度 水辺の「小さな自然再生」現地研修会

開催を希望する “現場” を募集します

(2025年5月8日(木) 応募〆切)



2025年4月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

多様な動植物が生息・生育・繁殖できる環境づくりを進めるためには、さまざまな主体が協力し、共に学び合うことが大切です。今年度も、水辺で「小さな自然再生」に取り組む仲間を増やし、育てていくことを目的として、「**小さな自然再生**」現地研修会を開催いたします。

川づくり・流域づくり・地域づくりに関わる方々、参加者皆様、そして「小さな自然再生」研究会の専門家とともに、身近な水辺で実際に取り組める「小さな自然再生」の方法を、現地で見試しできる機会です。研修会の開催候補地を募集しておりますので、ぜひご応募ください。

【応募条件】

水辺の小さな自然再生に既に取り組んでいる方々、またはこれから取組もうと考えている方々を対象としています。(応募者対象例：市民団体、河川管理者、研究者、実務者 etc.)

※応募いただいた方とは、2025年5月9日(金)以降にオンラインで面談を行い、開催地を最終決定いたします。

【“応募者(地元主催者)”と“JRRN”の主な役割分担】

◇応募者：地元調整(関係機関との連絡、会場手配、資材準備、地元向け広報等)、当日の運営補助

◇JRRN：専門家の紹介・派遣(旅費なども含む)、会場費や資材費等の一部負担、地元外への広報、研修会の運営・進行・記録・成果とりまとめなど

※研修会のプログラムは、応募者のご希望をもとに、JRRN および専門家と一緒に企画します。

【応募期間・スケジュール】

◇応募期間：2025年4月16日(水)～5月8日(木)

◇今後の流れ：

- ・～5/8(木)：開催希望地の募集
- ・5/9(金)～5月下旬：応募者とのオンライン面談 ⇒ **開催地を決定**(3箇所程度)
- ・6月上旬～12月頃：企画調整～現地下見～準備～現地研修会の開催
- ・翌年1月～3月：研修会の成果をとりまとめ、広く普及

【応募方法】

右記情報を明記の上、メールにてお申込み下さい。→氏名、所属、連絡先(住所・電話・e-mail)

【**応募申込み・お問い合わせ**】 E-mail: info@a-rr.net

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 担当：和田彰・白尾豪宏

〒104-0033 東京都中央区新川1-17-24 NMF 茅場町ビル7F

公益財団法人リバーフロント研究所 リバプロサポートセンター内

Tel: 03-6228-3861 E-mail: info@a-rr.net Website: <http://www.a-rr.net/jp/>



Collaborative Nature Restoration
「小さな自然再生」研究会



公益財団法人
リバーフロント研究所



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

研修会の開催候補地のイメージはこんな感じです

小さな自然再生とは？ <http://www.collabo-river.jp/>

次の3条件を満たす取組みを「小さな自然再生」と定義しています。

- (1) 自己調達できる資金規模であること
- (2) 多様な主体による参画と協働が可能であること
- (3) 修復と撤去が容易であること

① 地元に活動主体がいること

現場に活動主体がいることが重要な条件です。現地研修会を一過性の打ち上げ花火にせず、研修会がきっかけとなり、これまでの地元の活動が更に充実したり、新たな活動が動き出すことを後押しすることが研修会の狙いです。そのためにも、「この川を、この水辺を、そしてこの地域をよりよく変えていこう！」と願う地元の主役（団体や仲間）の存在が大切な開催条件となります。

② 河川管理者の協力が得られる現場であること

できれば座学のみではなく、川に入っの小さな自然再生の実践までを研修会を通じて開催できればと考えております。

その場合には、河川管理者の許可が得られる現場であることが条件となります。

これまでの研修会では、共催や後援、協力として現場の河川管理者に協力頂いておりますが、研修会開催の地元関係者の合意形成や事前手続きの簡素化、また研修会以降の活動の継続性等を考慮すると、河川管理者の応援を得た研修会とすることはとても大切なことです。（必ずしも「連携」できていなくても構いませんが、河川管理者が反対している現場において強引に開催することはありません。）

③ 準備や当日の運営に際し地元主体と JRRN で役割分担をして協働できること

本資料冒頭で触れている通り、地元主体と私たち JRRN で次のような分担をしながら「協働」で企画＆開催させていただきます。

<地元に担って頂くこと>

おすすめの現場の提案、河川管理者との調整、地元関係者への広報、資材等の可能な範囲の調達 etc.

<JRRN が担えること>

地元のニーズを踏まえたプログラムの提案、講師招聘（費用負担も）、河川管理者との調整のサポート、座学会場やバス手配（費用負担含む）、地元以外の広報、工具等のレンタルや購入、研修成果のとりまとめ、研修成果の普及。

たくさんの皆様からのご応募、ご相談をお待ちしております。

【お問い合わせ】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 (担当: 和田彰・白尾豪宏)
〒104-0033 東京都中央区新川 1-17-24 NMF 茅場町ビル 7F



公益財団法人リバーフロント研究所 リバフサポートセンター内

Tel: 03-6228-3861 E-mail: info@a-rr.net Website: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクト – 昨年度開催「小さな自然再生」現地研修会報告書を公開

2024年度（令和6年度）は、5月から11月にかけて計5回の「小さな自然再生」現地研修会を開催致しました。

■ 各研修会の開催概要はこちらから：

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/>

全5回の現地研修会について、研修会参加者とともに学び、楽しんだ内容を当日の写真を中心にとりまとめ、現地主催関係者より提供頂いたその後の取組等も含めた「開催報告書」を作成し公開しましたので、皆様にご案内させていただきます。

■ 各研修会の開催報告書はこちらから：

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

昨年度の各現地研修会は、地元の活動主体の皆様、技術や工夫を学ぶために参加された一般参加者の皆様、また「小さな自然再生」研究会の専門家との協働・協力により開催することができました。関係された皆様に厚く御礼申し上げます。

2024年度に開催した現地研修会

回	上段：開催地 / 下段：共催団体名
23	滋賀県 & 福井県・北川上流域河内川 北川を遊べる川にする有志の会
24	新潟県新発田市・古太田川 下興野自治会、早稲田大学景観デザイン研究室
25	滋賀県長浜市・大浦川 ONE SLASH
26	兵庫県上郡町・千種川 千種川圏域清流づくり委員会
27	長野県長野市・千曲川流域休耕田 更北中学校ものづくり部理科班、更北地区住民自治協議会、更北流域治水研究会

(JRRN 事務局・白尾豪宏)



■ 開催報告書ダウンロード URL: <http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/jrrn-lecturereport>

JRRN 事務局からのお知らせ (4) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトー 全国の小さな自然再生取組事例データベースを刷新

「できることからはじめよう 水辺の小さな自然再生事例集」(2015年3月)の発行から10年が経ち、たくさんの方々の協力を得ながら、小さな自然再生の取組みが全国に広がってまいりました。

これまで2015年と2020年に発刊した2冊の「水辺の小さな自然再生事例集」での紹介事例、2019年に開催した「小さな自然再生サミット神戸大会」で発表頂いた先進事例、全27回開催した「小さな自然再生」現地研修会の取組み事例、更には活動主体へお話を伺うなどして得た情報に基づき、全国の水辺で取組まれている小さな自然再生の取組み事例をデータベースとして大幅刷新しました。

2025年4月時点で69事例を紹介しております。各事例については、『位置情報、再生目的、活動開始年、適用工法、実施体制、効果、関連資料や参考情報 URL』をカルテ形式で整理しておりますので、各事例の関連情報と合わせて取組みの概要を理解し、地図から現場に足を運ぶこともできます。

なお、全国で取組まれている事例は、地図からの検索、または地域や再生の対象から探すことができます。

■ 地図から探す：

<http://www.collabo-river.jp/>

■ 地域と再生の対象から探す：

<http://www.collabo-river.jp/works/>

今後も全国の事例の更新を図ってまいりますので、是非とも情報提供をよろしくお願い致します。

(情報提供先： JRRN 事務局 info@arr.net)

(JRRN 事務局・和田彰)

小さな自然再生の事例 (地図から検索) : 69か所



■ 地図からの検索 URL: <http://www.collabo-river.jp/>

4月



撮影：JRRN 事務局



あの日のあの川 リレー日記 ～第79話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第79話主人公 伊藤真人

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：東京都落合川)

「夏の思い出」

いつのこと？： 小学校 2-4 年生

どこの川？： 落合川 (東京都東久留米市)

藤井さんからバトンを受け取りました、白川研究家の伊藤と申します。「あの日のあの川」というリレー日記のタイトルを見た際に、真っ先に思い浮かんだ川が落合川だったので、今回は落合川について少しばかり話させていただこうと思います。

落合川は東京都を流れる荒川水系の一级河川で、東京都東久留米市と埼玉県新座市の境界あたりで黒目川に合流します。湧き水がかなり多いため、水も澄んでおりとても綺麗です。都内で唯一、平成の百名選に選ばれており、それが納得できる綺麗さです。

これは、「夏の思い出」とさせていただいた理由にもなるのですが、小学校 2-4 年生の夏に、弟と一緒に落合川へと遊びに行ったことを今でもよく覚えています。落合川は主に東京都を流れていますが、東京都といっても 23 区ではないため、自然も豊かで、落合川は小学生にとって、夏の遊び場として最適でした。

東久留米市内において、落合川に架けられている毘沙門天橋の近くでは、遊歩道から直接水辺に降りられるような親水整備がされています。また、付近にある堰がウォーターライダーのようになっていて、浮き輪で滑っていたのを思い出します。大人気スポットで、赴いた時はいつも必ず順番待ちのために並んで待っている人がいるほどでした。記憶をたどりながら本稿を執筆しており、確証を得るために、「落合川 ウォーターライダー」で検索したのですが、当時滑っていた場所が真っ先に検索結果に出てきたので、それほど人気ですし、親しまれている場所なのだと思います。

当時はこのウォーターライダーで遊ぶか、河川に生息するドジョウやアブラハヤ、メダカやカワムツなどを捕まえることに勤しむかのどちらかで遊び時間の殆どを使っていました。落合川で遊ぶ時はいつも、帰るときに『もっと遊びたかった』と名残惜しさを感じながら帰路についていたのを思い出します。

時は流れ、もう私も大学 4 年生となりましたが、子供心はまだまだ健在なので、また落合川を訪れた際には、ウォーターライダーをもう一度滑ってみたいものです。

(次は遠藤拓馬さんにバトンを託します)

【お気軽にお問い合わせください】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3861 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@j-rr.net

URL: <http://www.j-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>